

このようにかかった経費の分類の仕方、性質別経費の分類といえます。物件費の他には、どのようなものがあるのでしょうか。

みなさんも知っているのとおり、町では5年度から図書館の建設にとりかかりました。5年度中に全体の約65パーセントが出来上がっています。この図書館建設の工事代は、建設事業費に分類されます。この建設事業費の決算額は、34億4655万円のうち図書館建設分として15億2261万円がかかっています。しかし、図書館建設は建設事業費の約半分ですから気になるもう半分は、町民会館前に建設した光風館や道路整備、農業排水路整備、合併浄化槽設置補助などに使われました。

(12ページ参照)

議員や町職員の給料として支払われた経費は人件費、児童手当や老人の入所措置委託料は扶助費、婦人会補助金など各種補助金は補助費、借入金返済分の経費を公債費にそれぞれ分類することが出来ます。

これら性質別経費を前年度決算と比較したり、他の市町村と比較したりするこ

とによって5年度の町の財政状況は、良好であるか？物件費などで、むだ遣いをしていないか？と分析できることも、5年先、10年先までの財政計画を立てて大型事業を実施するのに借り入れた資金の返済は、いつピークになるのか、そしてその時ほかの経費にどのような影響があるのかなど、将来の町の財政状況を検討するうえで非常に重要な役割をしています。

大型事業を実施するのに町が借り入れた資金は？

図書館建設に

11億円

前段で性質別経費について話しましたが、これは支出のことです。では収入はどうでしょうか。

町税、地方交付税ともに順調な増加をしましたが、なによりも地方債の増加が目につきます。大型事業を実施するのに町が借り入れたお金のことです。5年度何種類かの地方債を借り入れましたが、中でも図書館建設のために11億1830万円借り入れたのがいちばん多額なものです。

ここで、そんなに多額の

借金をして大丈夫か、また、どうして借金をして事業をするのかの2点についてお話ししましょう。

まず町の図書館は防音対策建造物の認定を受けているため県から毎年元利償還金の半分を補助金としてもらえることになっています。簡単に説明すると、みなさんの家庭で家を建設するのに200万円の20年ローンを借り入れたとします。その元金を10万円、利息の2万円、合わせて12万円を20年かけて返済しなくてはならないとしましょう。この12万円のうち半分の6万円が毎年補助金としてもらえるのです。従って町の負担も半分で済むわけです。

もう一点のどうして借金をして事業をするのかですが、前で話したように、より有利な補助があるのも一つの理由ですが、図書館は子どもから大人まで幅広くだれでも利用することが出来るため、建設する費用や借金の返済は、みなさん負担すべきですね。みなさんが納めている町税の一部も建設費や公債費として使われているため、納税している大人はもとより、子ども

たちも大人になつて税金を納めるときがきますが、その時一緒に負担してゆくことになります。ちなみに、今年7歳の子が29歳になったとき図書館の借金は返し終わる計算ですから、20歳から10年間は納めた税金の一部が公債費の図書館建設事業債元利償還金にあてられます。町民みんなで負担を施設をみんなに使ってもらう面からも、借金をして事業をすることは、より有効的なのです。

分析・診断結果は

良好で健全財政の確信

5年度決算を分析、診断した結果、良好で健全な財政の運営ができたと確信しました。

みなさんの家庭の5年度決算は、いかがでしたか。

性質別経費のグラフ（支出）

